

日本語の「〔乗り物〕で」と「〔乗り物〕に乗って」の選択について

杉村 泰 (名古屋大学)

要旨

本稿ではコーパス調査とアンケート調査を利用して、次のような「〔乗り物〕で」と「〔乗り物〕に乗って」の選択について考察した。

(1) 私は毎日自転車 {で/に乗って} 学校に行きます。

(2) 駅まで自転車 {で/?に乗って} 15分ぐらいです。

その結果、後に移動動詞や所要時間を表す述語が来る場合に、基本的には「で」が選択されやすいが、①特別な乗り物に乗る場合、②交通機関を乗り継ぐ場合、③特別な移動をする場合には相対的に「に乗って」が選択されやすくなることを明らかにした。

キーワード: 乗り物、「で」、「に乗って」、移動動詞、所要時間

はじめに

本研究は日本語の「〔乗り物〕で」と「〔乗り物〕に乗って」の選択について考察したものである。例(1)の中国語は日本語で「で」にも「に乗って」にも訳せるが、普通なら「で」が使われると思われる。また、例(2)の中国語は普通は「で」を使って訳し、「に乗って」を使うと許容度が落ちるとと思われる。

(1)a. 我每天骑自行车去学校。

b. 私は毎日自転車 {で/に乗って} 学校に行きます。

(2)a. 到火 骑自行车用十五分钟左右。

b. 駅まで自転車 {で/?に乗って} 15分ぐらいです。

中国でよく使われている『新編日語(第一冊)』(第6課、第7課)や『総合日語(修訂版 第一冊)』(第10課)などでは、初級前半で「自転車で行く」のような表現が教えられている。しかし、中国語では“骑自行车去”と言うため、中国人日本語学習者は「自転車で」の方がいい場合にも、中国語を直訳した「自転車に乗って行く」という言い方をすることがある。例えば、国立国語研究所の「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を見ると、次のような表現がある。いずれも「に乗って」でも間違いではないが、日本語話者

なら「で」を使いやすいと思われる。

(3) あ普通一バスに乗って一学校に行きます (中国/19歳女/総合日语/SPOT 80点)

(4) ここからその一バスに乗って三時間ぐらいかかります

(中国/21歳女・総合日语/SPOT 85点)

しかし、このような「で」と「に乗って」の選択については、先行研究には記述が見られない。そこで本研究ではコーパス調査とアンケート調査を利用して、両者の選択傾向の違いについて見ていくことにする。

1. コーパス調査

まず、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を使って「[乗り物] で」と「[乗り物] に乗って」の出現数を比較する。実際に調べた乗り物は自転車、バス、電車、タクシー、車、列車、船、飛行機など様々であるが、紙幅の都合上、本稿では「自転車」「バス」「電車」の3項目の検索結果だけを見ることにする。

1. コーパス調査の概要

本研究では検索ソフト「中納言」を使ってBCCWJから「[乗り物] で」と「[乗り物] に乗って」の用例を抽出した。検索対象は「全データ」で、次の①および②の設定で短単位検索を行った。これによって出現した用例の中から「自転車」「バス」「電車」の用例を抽出した¹⁾。

①前方共起1 (キーから1語以内) 書字出現形が [車/バス/電車]

キー (---) 書字出現形が [で]

②前方共起1 (キーから1語以内) 書字出現形が [に]

キー (---) 書字出現形が [乗っ]

後方共起1 (キーから1語以内) 書字出現形が [て]

2. コーパス調査の結果と考察

次に、上で抽出した用例を述語の違いによって分類し、「で」と「によって」の割合を調べたが、その結果を以下の表に示す。表の「(時間)」は「自転車で20分」のような所要時間が述語となる表現を指す。また、「来る」には「やって来る」を含む。移動動詞のうち「通う」「通学する」「登校する」「通勤する」「出勤する」は「[通勤・通学]類」としてまとめられるため、これらを合わせた数字が示してある。また、「で」の割合が80%未満のものには網掛けをした。

表 「で」と「に乗って」の用例数と「で」の割合

移動手段	述語	で	に乗って	「で」の割合		
自転車	行く	67	9	88.2 %		
	来る	18	8	69.2 %		
	帰る	11	7	61.1 %		
	移動する	18	0	100.0 %		
	通う	15	40	2	95.2 %	
	通学する	11				0
	登校する	6				1
	通勤する	8				1
	出勤する	0				0
	帰宅する	18	0	100.0 %		
	(時間)	21	1	95.5 %		
バス	行く	88	27	76.5 %		
	来る	18	5	78.3 %		
	帰る	19	13	59.4 %		
	移動する	33	2	94.3 %		
	通う	10	25	5	83.3 %	
	通学する	15				2
	登校する	0				0
	通勤する	0				1
	出勤する	0				0
	帰宅する	3	0	100.0 %		
(時間)	100	4	96.2 %			
電車	行く	83	23	78.3 %		
	来る	13	6	68.4 %		
	帰る	23	1	95.8 %		
	移動する	18	0	100.0 %		
	通う	12	24	6	80.0 %	
	通学する	2				1
	登校する	1				2
	通勤する	8				0
	出勤する	1				2
	帰宅する	2	1	100.0 %		
(時間)	40	0	97.6 %			

この表を見ると、次のような特徴があることが分かる。

- ・ どの場合も「に乗って」より「で」の割合の方が高い。
- ・ 全体的に「行く」「来る」「帰る」に比べ、「移動する」「〔通勤・通学〕類」「帰宅する」の方が「で」の割合が高い。
- ・ 「移動する」は「で」の割合がほぼ100%になっている。
- ・ 所要時間が述語となる場合は「で」の割合がほぼ100%になっている。

今回 BCCWJ から抽出した「[乗り物] {で/に乗って} +移動動詞」の用例を見ると、ほとんどの場合に「で」と「に乗って」が互いに置き換えられる。ただし、例(5)や例(6)のように交通手段の選択に焦点がある場合は「で」が選ばれ、例(7)や例(8)のように特に何かの乗り物に乗りこんだことに焦点がある場合は「に乗って」が選ばれる傾向が見られた。

- (5) 私と娘は車、主人は自転車で行くことにしました。(Yahoo!知恵袋)
- (6) 毎朝七時十分のバスで出かけ、十一時半の深夜バスで帰ってくる。(森真沙子『人生のもう一つの扉』)
- (7) みんなで都バスに乗って、いつもよりはちょっと遠くの公園へ行き、アスレチックなどを楽しんできた (Yahoo!ブログ)
- (8) 裏づけが取れたのは九時三十分には大阪空港からタクシーに乗って帰宅した、という点だけでした。(有栖川有栖『本格ミステリ』)

通勤・通学の場合に「で」が使われやすいのは、交通手段の選択に焦点が置かれ、特に乗り物への乗車に焦点が置かれるわけではないためであると考えられる。ただし、例(9)のように特別な乗り物に乗ることを表す場合には「に乗って」が使われる。

- (9) 若者らの間に美しいミニベロ自転車に乗って出勤することが流行のように広がっており、(Yahoo!ブログ)

また、例(10)や例(11)のように交通機関を乗り継ぐ場合にも「に乗って」が使われやすいことが分かる。

- (10) 飛んだのもこの1機のみ。シャトルバスに乗って移動。(Yahoo!ブログ)
- (11) 何から書いていいかわからないけど、電車乗って、高速バスに乗って大阪行くところから♪ (Yahoo!ブログ)

なお、述語が「移動する」の場合はほぼ「で」が使われており、「に乗って」は「シャトルバスに乗って」と「舞台あいさつ専用バスに乗って」の2例のみであった。この2例は特別な乗り物への乗車を表している。

また、「[乗り物] {で/に乗って} +所要時間」の場合、「で」を使うと単に所要時間を表すだけであるのに対し、例(12)や例(13)のように「に乗って」を使うと乗り物への乗車に焦点が当たり、所要時間かつ乗車時間の意味になる。ただし、特に乗り物への乗車に焦点が当たる場合でなければ、普通は「で」が使われている。

- (12) モンパルナスから汽車でウーダンという駅まで行き、そこから自転車に乗って二、三十分だったというが、(石田 修大『幻の美術館』)
- (13) 東京駅から電車に乗って五十数分。そこから歩いて二十分(山口瞳「旦那の意見」)

II. アンケート調査

上のコーパス調査を受けて、次は、①特別な乗り物に乗る場合、②交通機関を乗り継ぐ場合、③特別な移動をする場合には「に乗って」が選択されやすくなるという仮説を立て、日本語母語話者の「で」と「に乗って」の選択意識について見る。

1. アンケートの概要

本研究では2021年10月5-7日に、アンケート形式で下記のような「で」と「に乗って」の二者択一テストを実施した。被験者は日本語母語話者(大学生)95人で、設問は全部で22問であった。設問の形式は以下の通りで、具体例は次の節で示す。

問 次の「で」と「に乗って」のうち、より適当だと思うものに○を付けてください。

1. 宇宙人が円盤(で/に乗って)地球にやってきた。

(中略)

22. ここから駅まで自転車(で/に乗って)20分だ。

2. アンケートの結果と考察

まず、交通手段の違いによる「で」と「に乗って」の選択率の違いを見る。例(14)~(17)を比較すると、同じ通勤・通学の場合でも「タクシー」「自家用車」「電車」「自転車」のように日常使われる交通手段の場合は「で」の割合が90%以上と高く、「馬」や「象」のように日本語話者にとって特殊な乗り物の場合は40%未満と低くなっている。(例(14)~(37)のパーセンテージは「で」の選択率を示す。)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| (14) 彼はタクシー()通勤する。 | (98.9%) ← 「で」の選択率、以下同様 |
| (15) 彼は自家用車()通勤する。 | (96.8%) |
| (16) 彼は電車()学校に通う。 | (94.7%) |
| (17) 彼は自転車()学校に通う。 | (93.7%) |
| (18) 彼は馬()学校に通う。 | (36.8%) |
| (19) 彼は象()学校に通う。 | (29.5%) |

次に例(20)と例(21)を比較すると、同じバス通勤の場合でも「駅から」がないと「で」の割合が98.9%と高いが、「駅から」があると「で」の割合が69.5%と低くなる。例(21)の場合、「駅までは電車を使い、駅からはバスを使う」というように交通機関を乗り継ぐイメージがあるため、相対的に「に乗る」が選択されやすくなると考えられる。

(20) 彼はバス () 通勤する。 (98.9%)

(21) 彼は駅からバス () 通勤する。 (69.5%)

次に例(22)と例(23)を比較すると、「学校に通う」でも「公園に行く」でも「で」の割合が90%以上と高くなっている。これはどちらも日常的な移動であるためであると考えられる。

(22) 彼は自転車 () 学校に通う。 (93.7) (=例(17))

(23) 彼は自転車 () 公園に行った。 (90.5%)

一方、例(24)～例(27)を比較すると、「学校に通う」→「買い物に行く」→「旅に出る」→「家出をする」のように事態実現の頻度が低くなるにつれて、「に乗って」の割合が上がっていく傾向が見られる。これはわざわざ電車に乗って行動するという乗車のイメージが強くなるためであると考えられる。上の「学校に通う」と「公園に行く」の場合も、わずかながらも「公園に行く」の方が「に乗って」の割合が高くなっている。

(24) 彼は電車 () 学校に通う。 (94.7%) (=例(16))

(25) 彼は電車 () 買い物に行った。 (88.4%)

(26) 彼は電車 () 旅に出た。 (85.3%)

(27) 彼は電車 () 家出をした。 (71.6%)

次の例(28)と例(29)、例(30)と例(31)を比較すると、前者は調査前に予想したほど差は出なかったものの²⁾、後者は「飛行機」より「戦闘機」の方が非日常的なイメージがあるため「に乗って」の選択率が高くなっていると考えられる。

(28) 彼はタクシー () 犯行現場に行った。 (77.9%)

(29) 彼はバイク () 犯行現場に行った。 (75.8%)

(30) 彼は飛行機 () ハワイに行った。 (94.7%)

(31) 彼は戦闘機 () ハワイに行った。 (56.8%)

例(32)～例(35)の「筋斗雲」や「円盤」のように特殊な乗り物の場合も、わざわざそれに乗って行動するというイメージが強くなるため、「に乗って」の選択率が高くなると考えられる。ただし、例(34)は「円盤」を人さらいの手段・道具として捉えられるため、相対的に具格を表す「で」の選択率が高くなっていると考えられる。

- (32) 孫悟空が筋斗雲 () やってきた。 (29.5%)
 (33) 孫悟空が筋斗雲 () 空を飛んでいる。 (21.1%)
 (34) 宇宙人が円盤 () 人間をさらっていった。 (76.8%)
 (35) 宇宙人が円盤 () 地球にやってきた。 (35.8%)

最後に例(36)、例(37)を見ると、所要時間を表す場合は「で」の割合がほぼ100%となっている。

- (36) ここから駅まで自転車 () 20分だ。 (98.9%)
 (37) ここから東京までバス () 2時間だ。 (95.8%)

おわりに

以上、本稿ではコーパス調査とアンケート調査を利用して、「[乗り物]で」と「[乗り物]に乗って」の選択について考察した。その結果、後に移動動詞や所要時間を表す述語が来る場合、普通は「で」が選択されやすいが、①特別な乗り物に乗る場合、②交通機関を乗り継ぐ場合、③特別な移動をする場合には相対的に「に乗って」が選択されやすくなることを明らかにした。このことから、通常は交通手段の選択に焦点が当たるため具格を表す「で」の選択率が高くなるが、特別に何かの交通手段に乗り込んで行動するということが言いたい場合には「に乗って」の選択率が高くなることが分かる。

今後は乗り物を自分で動かす場合と客として乗る場合の違い、自動運転の場合と手動運転の場合の違いなど、様々な場合を調べることにより、さらに「で」と「に乗って」の違いを分析していきたい。また、日本語母語話者と日本語学習者の選択傾向の違いを見ることにより、移動行為に対する捉え方の違いについても明らかにしていきたい。

注

- 1) 例えば「近鉄電車」は「電車」という要素が付いているため考察対象としたが、「山手線」や「急行」などは「電車」という要素が付いていないため考察対象とはしなかった。
- 2) 予想では「バイク」より「タクシー」の方が特別な感じがするため「に乗って」の割合が高くなると考えたが、被験者はどちらも同じく非日常的な事態と捉え、75%前後の数字になったものと思われる。ここは「彼」ではなく「警官」、「バイク」ではなく「白バイ」とした方

がよかったかもしれない。

参考文献

周平・陈小芬编（1993）『新编日语（第一册）』上海外语教育出版社。

彭广陆・守屋三千代（总主编）、李奇楠・押尾和美（主编）（2009）『综合日语（第一册）』（修订版）北京大学出版社。

Choice of Japanese ”〔vehicle〕*de*” and ”〔vehicle〕*ni notte*”

SUGIMURA, Yasushi

Abstract

This article discusses the choice of ”〔vehicle〕*de*” and ”〔vehicle〕*ni notte*” like (1) or (2), using corpus survey and questionnaire survey (true-false test).

(1) *Watashi wa mainichi jitensha { de / ni notte } gakkou ni ikimasu.*

(2) *Eki made jitensha { de /[?] ni notte } 15 fun gurai desu.*

The survey results suggested as follow: When verbs of motion or predicates which represent time required follow with these two expressions, it has a tendency to choose “〔vehicle〕*de*”, on the other hand, (1) in the case ride special vehicles, (2) in the case make one's connection with the next vehicle, (3) in the case do special move, it has a tendency to choose “〔vehicle〕*ni notte*”.

Keywords : vehicle, “*e*”, “*ni notte*”, verbs of motion, time required